
漂流。

風唄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

漂流。

【Nコード】

N8062A

【作者名】

風唄

【あらすじ】

男は生きたかった、人間として…生きたかった

ザザー…ザザー…ザザー…何処からかの波の音で目覚めた、

…ここは何処だ？

目の前には一面の砂浜と見渡すかぎりの海、

後ろには山、

…

脳が急速に活動を始める、

…

ダメだ、わからない、

ここは何処だ？

…まず、俺は誰だ？

…

…？

頭がぼやける…

…

…喉が渴いた、

水…

俺は、とりあえず、水を探しに森の中に入っていった、

…ガサツガサツガサツ、

森は、何処にでもあるような、一般的な、森だ、

…

…？

何処からか水音がする気がする、

…とりあえず、俺は水音の方向に向かった、

…あつた、

小さな…川だ、

川は比較的簡単に見つかった

…

ゴクッゴクッゴク、

とりあえず、一気に水を飲み一息つくと、まず自分の状況を整理することにした、

…

…わからん、

とりあえず、自分の恰好と荷物を確認する、

至って普通のＴシャツに至って普通のジーンズ、至って普通のスニーカー、

至って普通の財布、至って普通の携帯電話、

…電源は入らない…

壊れてるのか、

財布を確認してみる、

紙幣は…無い、

小銭が…数枚、

他には…地味な至って普通の猫がプリントされているテレフォンカード…ただし、度数はあまり残ってないようだ…

どこかのスーパーのレシート、

これだけだ、

身分を証明出来るものは、なにも、無かった、

…

とりあえず海岸に戻ってみよう

…

海辺にはなにも無い、

なにも、

ゴミさえ、も、

…

どうしよう、

…

悩む、悩む、悩む、悩む、悩む、悩む、悩む、悩む、悩む、悩む、

…

状況がわからん、仕方ない、

腹が減った、食料を探そう、

火が無い今、海の上のものは食べられないだろう、

俺は、森に入った、

…見つからん、全く、

そう、都合よく木の実等なっている筈も無く、

当然、俺に食べられる植物がわかる筈も無く、

…腹が減った、

俺はどんどん山道を登っていった、

…ん？

どうやら頂上についたらしい、

坂は急では無かったとはいえ、一体いつのまに？

…

一瞬でそんな思考はどうでも良くなった、

海。

見渡すかぎりの…海、

…間違いなく、ここは絶海の孤島、

まあ、ある程度覚悟していたこととはいえ、

やはり、実際に見ると…

…俺は無言で下った、

まあ、独り言をいっても仕方ない、

とりあえず、食べられそうなものは片っ端から試した、

大半は食べられる味では無かったが、いくつか食べた、

翌日、火を起こした、

一日かかった、

木の枝を使って釣り竿を作った、

針なんて上等なものは無い、テレフォンカードを曲げなんとか代用した、

なんとか、二匹、釣れた、

島を探索した、

なにも無かった、

敢えて上げるとするならば、住めそうな洞窟を見つけた、

こうして、日々は過ぎていった、

日が出て、沈み、昇り、沈んだ、

時は過ぎた、

俺は生きていた、

海で魚や貝、海草を取り、

山で果実を探し、食べられる草や山菜を採り、

生きていた、

ずっと、

長い間、

どのくらい経ったかは知らない、

もはや、興味も無い、

ただ、生きた、

砂浜に、昔、書いた、

S O S も、もはや、意味を成さないだろう、

そうして時は過ぎた、

ある日、島に、船が、現れた、

船は、ボロボロのＴシャツとジーパンをはき、何かの板を大切に持っていた男を、救助、した、

男は、なにも、喋れなかった、

喋ろうとしている様子は見受けられた、

だが、なにも、喋れなかった、

男は、暴れ出した、

理由は、わからない、

船は、男を持て余した、

はつきりいえば、邪魔だ、

船は、男を、海に、沈めた、

男は、深い海の中に、徐々に、沈んでいった、

やがて、男は消えた、

男の、全てが、消えた、

船員は、男の持っていた板が浮いて来たことに気付いた、

船員は、不審がりながらも、面白半分で、引き上げた、

板を調べてみると、何かが書いてあるようだった、

そこには『死にたくない、もうすぐ言葉は忘れる、俺が俺でなくなりそうだ、頭がおかしい、俺は少しでも、人間であつたときの証拠を残したい…』

と、消えそうな文字が彫つてあつた、

船員は男の執念を感じ恐怖した、あいつは…もはや、言葉さえ失つたというのに…最後まで人間で居たかつたのかと、

船員は数年後、島を訪れた、

船員は洞窟を見つけた、

そこには…男の文字だろうか、

一面に、

死にたくない、人間でいたい

と、書いてあった、

帰りに、船員は、男を沈めた場所に向かった、

そこで、花を投げた、

船員は、そこで足を滑らせてしまった、

船には船員以外に人は居なかった

救命具もなにもつけていたかった船員は、沈んでいった、

最後に、船員は、

死にたくない、人間でいたい
と、聞いた気がした。

（後書き）

最後までお読みいただきありがとうございましたm（――）m未熟な作品であります。評価、コメントをいただけると幸いです（、――）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8062a/>

漂流。

2010年12月20日01時49分発行